

2013年研修会盛況裏に終わる！

2013年11月24日に開催されました脳機能とリハビリテーション研究会2013年研修会のご報告をさせていただきます。参加者は48名、職種はPT、OT、ST、学部生と幅広く、経験年数も新人から中堅、ベテランまで様々な年代となりました。関東圏内からの参加が多い中、東海や甲信越地方の遠方からも参加されていました。

研修会は午前中にMRI脳画像読影法の講義が行われました。

講義の前半は、総論としてMRI画像の原理、MRI画像の種類(T1、T2、FLAIR、DWIを中心に)とその特徴および診かたについて、大変分かりやすい内容となっていました。講義後半の各論では、MRIはCTに比べ脳幹部がより鮮明に描出されるという特徴があることから、脳幹部の読影を中心に講義が行われました。

午後の脳画像読影のグループワークでは、参加者を8グループ、2会場に分けて行われました。グループ毎に全て異なる脳卒中の症例1例の脳画像データを配布し、病巣の同定、臨床徴候の予測とその根拠について、指導者(ファシリテーター)と共にディスカッションしました。その後、実際の臨床所見との照らし合わせが行われ、発表のためのプレゼンファイル作成を行いました。最後にまたメイン会場に集まり、各グループから損傷領域の解釈や出現しうる臨床徴候について発表されました。フロアからの質疑応答では、病巣の同定の解釈の違いや他に予測される臨床徴候の可能性など意見が出され、忌憚のない活発なディスカッションが行われました。

今回の研修会の目的の一つは、「MRI画像の読影に慣れる」ことでした。参加者は、自分のグループの症例を2時間かけて読影しました。さらに他グループの症例の発表を聞くことで、少しずつ脳画像に慣れてきた印象を持ちました。小笹講師からは、「職場に戻ってからも引き続き脳画像の読影を継続することが重要」との話がありました。その際のポイントとして、「一人でただ画像を見るだけでなく、職場の同僚や後輩、実習生など複数人で見ながら、他人に教え、伝えていくことが習得の早道になる」とのことでした。

脳画像読影の重要性を再認識し、今後も継続して脳画像読影を行う気にさせてくれる研修会でした。

参加者からも以下のように多くの反響がありました。

「想像以上に脳画像から得られる情報があることを知って驚いた」

「脳画像を見ることがだいぶ理解できるようになりました」

「画像を臨床で活用していきたいし、していかなければいけないと思った」

「職場の同僚や部下にも伝えていきたいと思った」

「普段も画像を見ているが、更に細かいポイントなどを知ることができて良かった」



午前の講義風景：迫講師による講義各論



グループワーク風景：プレゼンファイルを作成中



グループ発表風景

画像から病巣と予測される症状を報告しています

定例勉強会について

本研究会では、定例勉強会を約3ヶ月に1回の頻度で開催しております。約1年前、正式な研究会主催の勉強会に位置づけ、名称を変更してから既に5回を開催しました。参加者は毎回、20～30名ほどで、PT、OT、STなど職種も多彩です。時には学生さんの姿も見られます。過去2回の勉強会を振り返り、概要を以下にまとめてみました。どの発表も興味深く、臨床でも生かせる示唆に富む内容ばかりでした。内容の詳細は研究会のブログでもご覧になれます。勉強会開催のアナウンスは事前にホームページ、ブログ、facebook、twitterなどで配信しております。ぜひ、皆さんも参加してみてください。

第6回勉強会

2013年9月8日(タワーホール船堀)開催

プチ神経科学講座

「行動選択の神経機構～計算論的神経科学の視点から～」

野々村 聡 (玉川大学大学院 脳情報研究科 博士後期課程)

症例検討

1. 「刺激とは異なる部位で感じる脳卒中後のalloesthesia(知覚転位)について」

高杉 潤 (千葉県立保健医療大学リハビリテーション学科)

山本 哲 (茨城県立医療大学大学院)

第7回勉強会

2013年11月3日(タワーホール船堀)開催

プチ神経科学講座

「論文読解に役立つ神経科学研究法入門」

武下直樹 (茨城県立医療大学)

症例検討

1. 「両側前大脳動脈の梗塞により両側補足運動野・両側前部帯状回が障害された一症例～長期間のリハビリテーションにより日常生活活動が自立にいたった症例～」

若旅正弘 (鶴巻温泉病院 リハビリテーション部)

2. 「偽性視床痛を呈する症例へのミラーセラピーについて」

市村大輔 (多摩川病院 リハビリテーション科)

3. 「拡散テンソル画像による拡散異方性(FA)と身体機能の関連」

山本 哲 (茨城県立医療大学大学院)

第7回勉強会

2014年2月26日(タワーホール船堀)開催

研究報告

「脳卒中後の運動麻痺とFractional anisotropy(FA)の関連について—拡散テンソル画像を用いて—」

岡本善敬 (茨城県立医療大学大学院)

症例報告

1. 「2度の脳梗塞にて歩行失行を呈した症例～前頭葉内のネットワークの障害を疑った症例～」

郡司麻美 (JAとりで総合医療センター)

2. 「偽性視床痛を呈する症例へのミラーセラピーについて(第2報)」

市村大輔 (多摩川病院 リハビリテーション科)

3. 「視床性運動失調が下肢に出現した症例」

杉山 聡 (国立病院機構下志津病院)